

2014年度 青少年と保護者における
インターネット・リテラシー調査
安心協ILAS 最終報告書について



1億人のネット宣言
もっとグッドネット

2015年3月31日

安心ネットづくり促進協議会

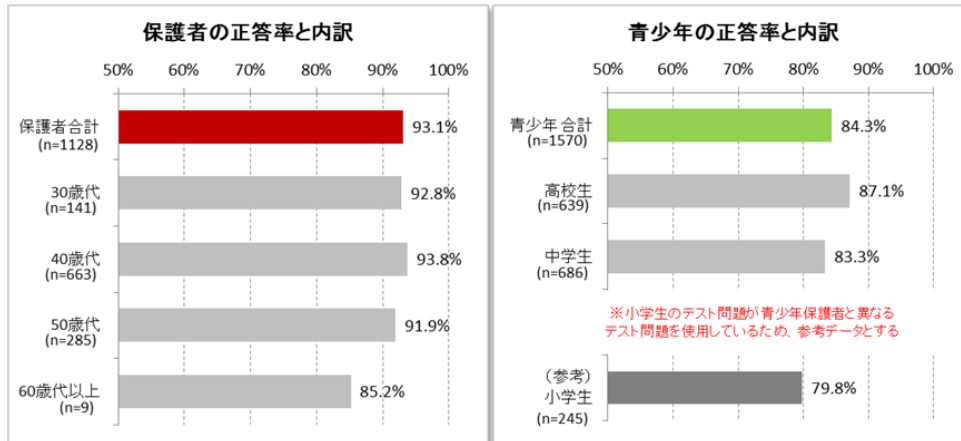
調査研究委員会 ILAS検討作業部会

事務局

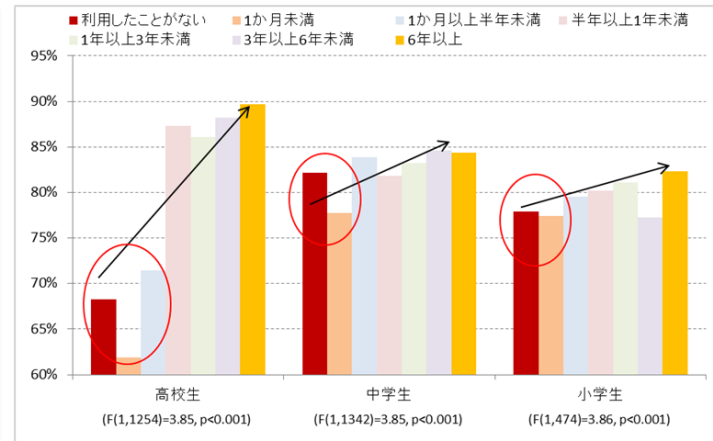
1. 安心協ILASの調査結果

- 図表1-1より、保護者の正答率は年齢ではほぼ変わらず、中高校生では学齢が低くなると正答率が低い
- 図表1-2より、保護者・青少年ともに、啓発教育の経験がある人のほうがリテラシーが高い
- 図表1-3より、インターネット利用の初期段階ではリテラシーが低い傾向にあり、トラブルが起きやすいことが想定される
- 図表1-4より、全く利用しないのではなく、利用し過ぎず、適度に利用をコントロールできている人がリテラシーが高い

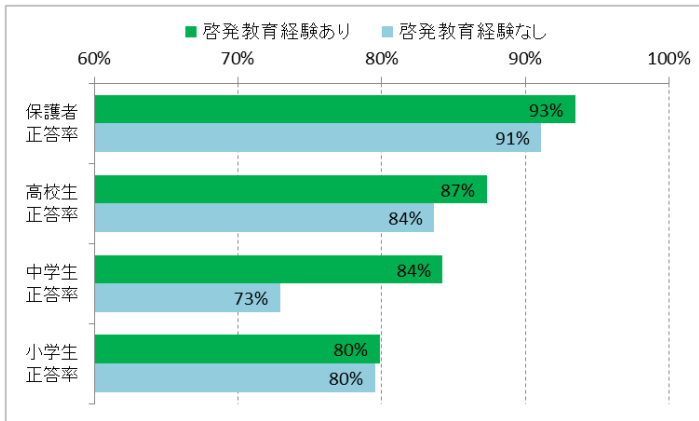
【図表1-1: 保護者と青少年の正答率と内訳】



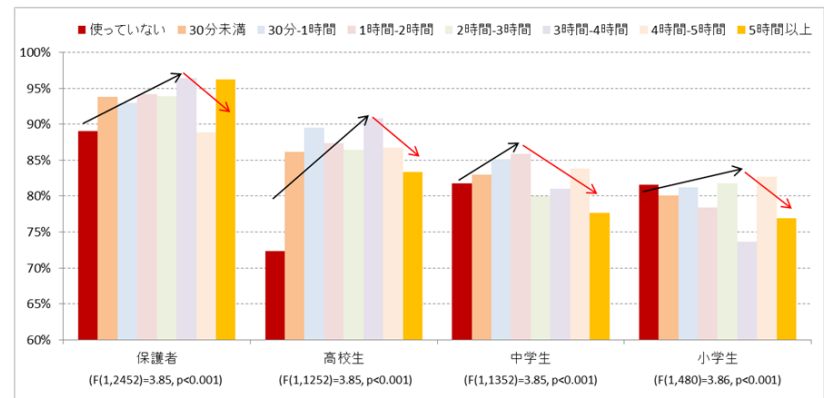
【図表1-3: ネットの利用期間と正答率】



【図表1-2: 啓発経験別の正答率】



【図表1-4: ネットの1日の利用時間と正答率】



2. 活動総括

本活動は昨年度7月の作業部会立ち上げ以降、協議会関係者の「青少年インターネット健全利用」への啓発意欲とPTA(日本PTA全国協議会・全国高等学校PTA連合会)等の多大な協力によって、昨年度に引き続き約3千人規模(全体の協力者数3,098名:保護者1,286名、高校生759名、中学生795名、小学生258名)のテスト実施から分析までのとりまとめにつなげることが出来た。結果として、総務省が定義したリスク分類を具現化した7項目のリテラシー分類をもとに作成された昨年度の設問内容を、最新事象への刷新を行い、小学生から大人まで実施可能かつ短時間で回答できるテスト及び解説集の完成と、各対象のインターネット・リテラシーの分析が出来たことは大きな成果と言える。

さらに、当協議会参画企業が安心協ILASを援用したタブレット教材として地域の行政機関と連携して、小中学生の情報授業の前後での効果検証に活用する事例が始まる等、この活動が地道に広がりつつある。

対象	対象2	テスト問題	アンケート	解説集	実施人数	実施協力
保護者	保護者 ※18歳未満の子供を持つ保護者	4択式	保護者用	保護者 中高生用	1,286人	12箇所
青少年	高校生		青少年用		共通	759人
	中学生	795人		4箇所		
	小学生	○×式	共通	258人	3箇所	
合計					3,098人	15都道府県 22箇所

本報告書の分析結果から考察した場合、以下の4つが考えられる。

- インターネット利用の初期段階(利用なし～利用半年間)では、リテラシーが低い傾向にあり、トラブルが起きやすいことが想定される。
- インターネットをまったく利用しないのではなく、ある程度の利用経験があり、また利用し過ぎず、適度に利用をコントロール出来ている青少年は、正答率が高いと言える。
- 青少年、特に小学生においては、法律関係(著作権)の設問の正答率が低かったことから、専門的な用語や日常的に利用していない事業に関する理解が不足していると思われる。
- 最新の事象をテスト化したことにより、学齢や利用経験に依らない結果がみられた。これは、最新の事象の経験値(年数)は、保護者と青少年の間、並びに高校生と中学生の間でも変わらないことが考えられる。

上記のことから、「家庭や学校等で話し合う機会を設けて、適切に利用時間をコントロールすることを推進すること」、「青少年の啓発研修会において、専門的な用語(法律等)を丁寧に説明すること」また「保護者や青少年の研修会において、最新の事象を出来る限りタイムリーに伝達していくこと」が必要であり、安心ネットづくり促進協議会の啓発活動と連携していくことを進めていく。